

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第88号(2014. 7. 1)
事務局川西地区自主防災会

「その時どんな状況になるのか」、 しっかりと（正しく）イメージアップする

防災アドバイザー 乃田 俊信

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様におかれましては、日頃から地域はもとより、県下一円の防災・減災の要としてご尽力・ご活躍されており、心から感謝申し上げているところです。

また、皆様方の企画力・実行力、そしてその輝かしい実績は、県内外はもとより、中央からも極めて高く評価されており、衷心より敬意を表するとともに、創設期よりご縁のある私にとって、この上ない喜びであります。

どうか、これまでの輝かしい成果を目標達成とは思わず、「まだまだやることはある」との認識のもと、その日のために「さらに一歩前進」されますよう心からご期待申し上げます。

さて、私は昨年3月県庁（防災指導監）を退職後も、大学で防災に関する講座を開いたり講演活動を続けさせていただいているが、県庁時代も含め、これらの講演等において、一貫して強調していることがある。それは、「その時どんな状況になるのか」、しっかりと（正しく）イメージアップするということである。今回はそのことについて述べてみたいと思う。

その前に、先ず防災対策（備え）の原動力である防災意識について考えてみましょう。

阪神・淡路大震災以降、「備えあれば憂いなし」（中国の古典：「左伝」）という言葉が頻繁に使われるようになりました。これは、皆様よくご存じ通りで、今さら私が説明する必要もないと思うが、意外と知られていないのは、これが三段論法になっていることである。

「居安思危」（安きに居りて、危うきを思う）

「思則有備」（思えばすなわち、備えあり）

「有備無患」（備えあれば、患（憂）いなし）

そして、最も重要なのが第1句の「居安思危」、即ち、「何もない今、災害のことを思う（意識する）」ということである。これが「備えあれば憂いなし」の真意であり、防災



意識の原点・備えのスタートなのである。(第3句の「有備無患」は、単なる結果論にすぎないといっても過言ではない。)

また、思わない(意識しない)人は、決して備えを「実行しない」のである。

極論すれば、防災意識とは、「何もない今、災害のことを思う(意識する)」ことなのである。

さて、災害から命を守る3大ポイントは、

- ①正しく知る(怖がる)
- ②正しく備える(訓練する)
- ③正しく判断し、正しく行動する

と言われているが、これだけでは抽象的で、何のことなのかよく分からない。これらを一つひとつ具体的に説明していくのが講演の主体となる訳である。



そしてこれら3大ポイントに共通する最重要事項が、私が最も強調している「その時どんな状況になるのか」、しっかりと(正しく)イメージアップするということである。

これは、「自助」「共助」「公助」のいずれにも、また、危機対応の(時系列的)分類の「予防」「準備」「応急」「復旧」のいずれの段階においても、共通する重要事項だと、私は認識している。

明治生まれの物理学者・寺田寅彦は「天災は忘れた頃にやってくる」という警句を残した人として有名であるが、そのほかに「(人間は) ものを怖がらなさすぎたり、怖がりすぎたりするのは易しいが、正当に(正しく)怖がることはなかなか難しい」という言葉も残している。この言葉は、私たちが災害に対し、なかなか備えない直接の原因を、鋭く指摘した言葉だと思っている。

「怖がらなさすぎる」人は、「怖いもの知らず」で、一方、「怖がりすぎる」人は、起こりえないことまで心配する「取り越し苦労(杞憂)」である。どちらも正しい対策(備え)を講ずることはできない。

「正当に(正しく)怖がる」ということは、私たちの周りで起こりうる地震・津波・風水害・土砂災害等の各種災害の「危険の度合い」を正しく認識するということである。

危険の度合いを正しく認識するためには、知識だけでは不十分である。

南海トラフ地震(発生頻度の高いもの)が発生した場合、香川県の広い地域で「6弱」の揺れがあり、最大津波高は一部の地域で3以上と言われているが、このことを知っていても大した意義はない。「その時、どんな状況になるのか」ということを具体的にイメージアップできるか、どうかということが重要なのである。

例えば、「震度6弱」の揺れがあった場合、我が家は倒壊するのかあるいはどの程度壊れるのか、家具・調度品・電化製品等はどうなるのか、出入り口は開くのか、ガラスは割れるのか、停電の可能性は、屋外(瓦、塀、看板、電柱は)の状況はどうなのか? こういったことがイメージアップできるか、どうかということである。津波については、最大どこまで浸水してくるか、第1波は地震発生後どのくらいで到達するか、第2波・第3波が第1波より大きくなることもよくあること、といった基礎知識のほかに、津波の特性、特にそのパワー(1m以下でも生命・財産を奪う・30cm以上になると避難

行動が取れなくなる) や速さがイメージアップできなければならない。

しかし、ひと口にイメージアップするといってもなかなか容易ではない。そこで、イメージアップを手助けする方策としては、

- ①「読む」: 各種文献や資料、体験の手記などを読む
- ②「聞く」: 体験談や各種講演・ディスカッションなどを聞く
- ③「見る」: 災害の実録・シミュレーション・実験などの映像・写真などを見る
- ④「体験する」: 防災センターなどで各種模擬体験をする

などが挙げられる。中でも印象深く五感に訴える③や④が効果的であるが、①～④を組み合わせ、繰り返し学習することが必要となってくる。被災地へ支援等で赴くことは、イメージアップには最も効果的な方法であるが、その悲惨さにインパクトが強すぎて、帰ってからその状況を多く語りたがらない人も多いと聞いている。

その時の状況を、しっかりと（正しく）イメージアップできれば、次のような効果がある。

- ①正しく知り、危険の度合いを正しく認識（正しく怖がる）し、備えの必要性を十分に認識できる・・・「防災意識の高揚」
- ②「どのように備えればよいか」ということが自然と見えてくるとともに、訓練の在り方が理解できる
- ③いざという時の判断が正しくでき、正しく行動することができる



人は沢山のことを覚え、また沢山のことを忘れる。忘れることは次の前進のためには必要なことであり、忘れることができなければ、人間、ノイローゼになってしまうであろう。しかし、肝心なこと、特に命に係わることを忘れてはいけない。若しそれも忘れたという人がいたら、それは忘れたのではなく、心に油断や隙間が生じたからではないだろうか。

中途半端な備えで、これで一安心と満足してしまうと、そこには大きな落とし穴が待ち受けている、自分だけは災害に遭わないという「当事者意識の欠如」、今まで大したことはからこれからも大丈夫だろうという「認識不足」、訓練などしなくてもいざとなったら簡単にできるという「過信」、これらが私たちの命を危うくしているのである。

その時の状況を、しっかりと（正しく）イメージアップできれば、これらを防ぐことができる。

日本には、「油断大敵」ということわざがある。一方、シェークスピアは「安心というのは、自分の最も近くにいる大敵である」と言っている。洋と時代を隔てた二つの言葉を、原点に戻って、よく考えたいものである。

観音寺市柞田地区防災訓練<フォローアップ事業>

- (1) 5月25日(日)初夏というのに暑さは盛夏なみでの総合訓練に約450名の参加があり、盛り上がりました。訓練もさることながら消防団の皆さんが作ったカレーライスの味、無茶苦茶おいしかったです。カレー専門店の味に負けない出来ばえだったと思います。消防団長さんに秘伝をお聞きしましたが、しょう油とソースの混ぜ具合だそうです。
- (2) 訓練はすべての人達に多くのことを学んでいただくという9種目のカリキュラムを組み、実践しましたが、気象条件を考えると、2年間ですべての種目を体験する計画にして訓練時間を短く(1時間20分位)することを学びました。





(3) 参加者にアンケートをとり、回答は152名からいただき、分析してみました。

①回答者 性別 男性71% 女性29%

②回答者 年代別 30歳…25人 40歳…31人 50歳…21人
60歳…43人 70歳…19人

③訓練参加の感想 非常に良かった…44% 良かった…50%

④どの訓練が良かったか？

・心肺蘇生・AED	103人	・応急手当	87人
・担架組立搬送	75人	・家屋倒壊	60人
・家具転倒防止	52人	・バケツリレー	50人
・ロープ関係	44人	・水消火	29人
・土のう作り	20人		

⑤次回も参加するか

・参加する 128人 ・分からない 20人 ・参加しない 3人

⑥気になる災害は

・地震 138人 ・洪水 19人 ・土砂災害 3人 ・その他 5人

来年度も是非訓練を実施され、継続することによって地域の防災文化を育てていただきたい。

事務局だより

平成26年7月

かがわ自主ぼうの事務局を担当している「川西地区自主防災会」最近の活動を紹介します。

現時点(6/30)でのフォローアップ事業についてご紹介します(日程確定分)。

- ・ 7/ 7 (月) 多度津高校と周辺自治会との防災研修
- ・ 7/10 (木) 高松太田南地区防災研修
- ・ 7/20 (日) 高松国分寺北部地区防災訓練
- ・ 7/27 (日) 観音寺一の谷地区防災訓練
- ・ 8/24 (日) 観音寺五郷地区防災訓練
- ・ 8/24 (日) 観音寺吉岡地区防災研修
- ・ 9/14 (日) 高松国分寺町北谷団地自治会防災研修
- ・ 9/18 (木) 高松国分寺防災講座 (コミュニティセンター)
- ・ 9/30 (火) 三豊市高瀬町防災研修
- ・ 10/11 (土) 高松林地区・香川大学連携防災訓練
- ・ 11/23 (日) 三豊市仁尾地区防災訓練
- ・ 11/30 (日) 三豊市豊中中学校と周辺自治会との防災訓練

県民防災週間 2014 シンポジュームの開催

～南海トラフ地震に備えて私たちが今できること～

と き : 7月21日 (月・祝) 13:30 ~ 16:30

と ころ : 香川県社会福祉総合センター 1階 コミュニティホール

「河田恵昭」先生と「中林一樹」先生という防災の大御所を招いてのシンポジウムです。多くの参加をお待ちしています。

編集後記

今月の防災減災の輪は、防災アドバイザー乃田俊信様より原稿を寄せていただきました。ありがとうございました。